

昭和60年3月15日

第28号

大阪産業大学校友会報

発行所 大阪産業大学校友会
〒574 大東市中垣内3の1の1
電話(0720)75-3001(内線 381)
(0720)75-3040(直通)

郵便振替口座番号
大阪 89325

OSAKA INDUSTRIAL UNIVERSITY

次期も里会長が再選さる。



第15回代議員会を開く

役員改選・60年度予算・会則改正

西へ西へ、姫路の空の下、今回の代議員会を開催した。国鉄「姫路駅」の南、姫路キヤツスルホテルに2月16日(土)午後4時に集合する。

議長 清野 達夫氏(交短12産大1)

副議長 花崎 博美氏(産大3)

○昭和60年度予算の承認

○会則改正について承認

支部長会を新設し、支部の振興がはかれるようにした。昨年、第1回の支部長会を暫定的に開催し、非常に好評であった。今回も多くの支部分係者が出席され話題を提供した。

役員改選 一 里会長を再選す

つぎに役員の改選に入り、次の各選考委員会のメンバーを選んだ。

◎常任幹事・幹事の選考委員会
辻尚武氏、梅木氏、岡氏、

中島氏、加門氏、高見氏、

里会長、池田副会長、光岡副会長

中山副会長、眞田副会長

○会長・副会長の選考委員会

谷口氏、美内氏、荒木氏

大平氏、金丸氏、武内氏

以上の各選考委員会より推薦された候補者を幹事会、代議員会にて選出した。里会長の再任を初めて別記のように決定した。(役員の選出方法は役員選出内規を参考にされたい)

懇親会
役員改選の手続による疲労もあり紹介やらカラオケ、料理も不足ぎみであったがにぎやかな一日であった。翌日の日曜日は姫路城への見学、行事の関係で早く帰る人もあった。里会長を初め5人は、今日の岡山県支部の総会に出席するため、あわ

ただしく出かけて行つた。岡山ロイヤルホテルではバイタリティのある光岡支部長をトップに、つわものが大勢まっていることだろう。

会則の改正

第九章 支部(および支部長会)

第31条 地域又は職域に支部を置く場合は、

幹事会の承認を得るものとし、代議員会で報告する。

第32条 支部長会は支部相互の意見や情報交換と懇親をはかる。

1、支部長会は会長が招集する。
2、支部長会の構成は会長、副会長、支部長、支部業務担当の幹事、および会長が必要と認めた支部のない都道府県の代表者とする。但し支部長については代理者を認められる。

○ 井 加 峠 武 金 皿 箕 金 金 大 久 保	○ 上 藤 内 岡 屋 谷 丸 住 菱 田 清 表 梅 村 村 里 林 堀 川 信 顧 問	○ 中 山 幸 藏 本 昌 和 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期
○ 井 加 峠 武 金 皿 箕 金 金 大 久 保	○ 上 藤 内 岡 屋 谷 丸 住 菱 田 清 表 梅 村 村 里 林 堀 川 信 顧 問	○ 中 山 幸 藏 本 昌 和 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期
○ 井 加 峠 武 金 皿 箕 金 金 大 久 保	○ 上 藤 内 岡 屋 谷 丸 住 菱 田 清 表 梅 村 村 里 林 堀 川 信 顧 問	○ 中 山 幸 藏 本 昌 和 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期
○ 井 加 峠 武 金 皿 箕 金 金 大 久 保	○ 上 藤 内 岡 屋 谷 丸 住 菱 田 清 表 梅 村 村 里 林 堀 川 信 顧 問	○ 中 山 幸 藏 本 昌 和 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期
○ 井 加 峠 武 金 皿 箕 金 金 大 久 保	○ 上 藤 内 岡 屋 谷 丸 住 菱 田 清 表 梅 村 村 里 林 堀 川 信 顧 問	○ 中 山 幸 藏 本 昌 和 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期	○ 池 田 田 梅 田 佐 佐 田 田 光 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 村 田 田 陽 交 短 5 期 真 田 田 佐 交 短 1 期 石 川 信 男 交 短 1 期

代議員



(昭和60年2月16日一部改正)
枠内が改正した部分

役員名簿(任期昭和60年4月1日から昭和62年3月31日まで)

相談役 岩川信男 交短1期

幹事 田川一本忠治 交短1期

原田秀典 交短1期

安井義文 交短1期

加藤憲治 交短1期

賀康光 交短1期

川本忠温 交短1期

岡本克彦 交短1期

西川巖 交短1期

藤田詔雄 交短1期

谷口義清 交短1期

辻本俊彦 交短1期

川内照男 交短1期

森博美 交短1期

橋本健治 交短1期

荒木治産 交短1期

花崎博美 交短1期

吉田護産 交短1期

田川吉博 交短1期

岡田誠俊 交短1期

明治 交短1期

太田明彦 交短1期

浅田弘太郎 交短1期

鍋本三郎 交短1期

杉田日出喜智 交短1期

千原実 交短1期

高杉康一 交短1期

水谷洋一 交短1期

木村義次 交短1期

花田正之 交短1期

芦田正 交短1期

高田康 交短1期

田中洋一 交短1期

木村元 交短1期

西田亮 交短1期

鈴木敏也 交短1期

木村勝也 交短1期

田中勝也 交短1期

木村義也 交短1期

木村義也 交短1期

印は新任

役員選出内規

は常任幹事、幹事若干名とし、現会長は入らない。

第1条(目的)
この内規は、大阪産業大学校友会の第三章第9条の役員選出について定める。

第5条(副会長選出)
副会長候補は会長選任後、選考委員会により選出する。この選考委員会の構成員は新会長、常任幹事、幹事若干名とする。

第2条(代議員選出)
代議員の選出は、次の通りとする。
1、役員任期の2ヵ年を満了する者は、その任期中の代議員会出席が1回以上ある時再任する。

2、欠員補充および新年度卒業によつて就任した者は、会議の出欠にかかわらず再任する。

3、代議員としての立候補者、推薦候補者、再任候補者であつても役員人数配分によつて卒業年度に片寄りのある場合および校友会活動に積極的な参加がむづかしい場合は選出しない。

4、欠員補充および新年度卒業者の新代議員は、あらかじめ告示し、立候補と推薦を受けた後、一括して決定する。

第3条(幹事選出)
常任幹事、幹事は代議員中より選考委員会により選出する。この選考委員会は、会長、副会長および代議員若干名により構成する。

第4条(会長選出)
会長候補は、選考委員会により選出する。この選考委員会の構成員

は正会員で社会的功労者であり、母校ならびに本会に著しく貢献のあつた者。

第6条(会計監事選出)
会計監事は、幹事会で候補者を推薦し、代議員会で選出する。

第7条(顧問・参与・相談役選出)
1、顧問
正会員で本会の役員経験者であり、母校ならびに本会に貢献のあつた者。

2、参与
正会員以外(会外者も含む)で母校ならびに本会に貢献のあつた者。

第8条(幹事若手選出)
1、この内規は幹事会の議決により改正することができる。

2、この内規は、昭和55年11月17日より施行する。

(昭和58年5月28日一部改正)

昭和60年度特別予算(記念名簿)

●収入の部

予 約 販 売 料	5,000円×1,000部	5,000,000
送 料	1,000円× 800部	800,000
一 般 販 売 料	7,000円× 30部	210,000
広 告 料	60,000円×65ページ	3,900,000
積 立 基 金 よ り		5,000,000
		14,910,000

支出の部

名 簿 作 成 費	3,000部	10,000,000
通 信 費(調査用)	22,000名×80円	1,760,000
通 信 費(送 料)	1,000円×800部	800,000
人 件 費	10ヶ月×100,000円	1,000,000
印 刷 費		250,000
会 議 費		300,000
消 耗 品 費		200,000
雜 費		200,000
予 備 費		400,000
		14,910,000

積立基金予算

58年度より	繰 越 金	143,998,692
59年度	繰 入 金	2,500,000
60年度	繰 入 金	0
59年度	受取利息(予算)	11,000,000
60年度	受取利息(予算)	11,000,000
	小 計 (収入)	168,498,692
60年度	記念名簿へ支出	5,000,000
61年3月31日	合 計 額	163,498,692

●部門事業計画●

総務部 現在、第11号館(本館)が建設中であり、昭和61年9月ごろには事務室の引越を予定しているので新規事業は予定していない。
運営部 今年は校友会の15周年記念でもあり、総会パーティは11月24日(日)にホテル日航大阪において盛大に挙行する予定である。また課外活動団体助成(クラブ助成)については、特技入試(スポーツ推薦入試)の指定されているクラブを重点的に助成するために予算総額を増額させている。
編集部 会報は前回27号よりカラー印刷にし体裁を一新しましたが、引き続きこの様式で発行します。経費は旧来の新聞タイプよりも2倍程かかりますので、会報購読料の払込みの協力が必要です。
支 部 現在、支部数は16支部あります。昨年、第1回支部長会を開催いたしましたが、好評がありましたので今年も引き続き開催いたします。開催日は総会パーティと同時にするか、代議員会と併行して行うか、若干工夫して開催する予定にしています。

●特別予算(記念名簿)、積立基金予算●

記念名簿の発行は交通短大1期生から今年の卒業生までを掲載したものを行なう予定です。発行費用の総額が大きいので特別予算として別途としました。前回は昭和53年に発行していますのでその時の状況などを考慮し、総合的に予算計画を作成しました。事務局では名簿が一冊でも多く販売できれば、予算の運営が楽になるよう名簿の販売にご協力ください。

積立基金予算は前年のまま据置きとなり、基金への繰入は零となりました。支出については上記の記念名簿への支出が500万円になることになっています。積立基金の運用は大学や学園との関係における記念事業への寄付など、今後のかかわりを充分に考慮に入れながら行なってゆく必要があります。

昭和60年度予算表

収入の部

(単位:千円)

	総務部	運営部	編集部	支部推進部	合 計
前期 繰 越 金	3,500				3,500
校 友 会 費	27,000				27,000
会 費 収 入	36	595	200		831
雑 収 入	1,240	150			1,390
計	31,776	745	200		32,721
				預 金	13,500
				合 計	46,221

支出の部

	会 議 費	1,040	1,450	70	1,220	3,780
総 会 費		4,700				4,700
通 信 費	830	100	1,887	200		3,017
印 刷 費	350	250	100	260		960
備 品 費	300					300
旅 費 交 通 費	380	430	30	630		1,470
慶弔 費	400	200				600
消 耗 品 費	200					580
会 員 名 簿			1,300			1,300
機 関 誌			2,320			2,320
記 念 品 費	1,215			60		1,275
学 生 助 成 金		4,000				4,000
支 部 準 備 金				1,720		1,720
調 査 費			600			600
広 報 費		400		600		1,000
人 件 費	2,000		500			2,500
雑 費	300	350	100	100		850
予 備 費	421	505	313	510		1,749
基 金 繰 入						0
合 計	6,221	13,600	7,600		5,300	32,721
				預 金	13,500	
				合 計	46,221	

■大阪日産モーター支部

家族づれで支部総会

昭和59年10月10日（祝日）に、大阪日産モーター支部の第4回総会が、30数名の出席で行なわれました。

今回は貸切りバスを用いての、レクリエーションを含んだ総会、難波の歌舞伎座前に支部旗を目印に集まり、観光バスに乗り合わせて出発しました。この日の日程は、難波を出發し近江神宮参拝・琵琶湖にてアメリカのミシガン湖で名高い外輪船（日本名ミシガン）に乗船し昼食・三井寺参拝（支部総会）・難波着といったコース。

車中では、役員の唐津氏の司会により、西川支部長の挨拶で始まり、再会を喜び話がつきない楽しい進行でした。校友会本部からは、大久保常任幹事が祝辞を述べられました。総会は三井寺参拝のおり、出席者全員の方に昨年度の活動報告並びに会計報告があり役員の留任が決定しました。

観光バスでのレクリエーションを兼ねた総会とあって、カップルや家族の参加が多く、車内においても対向車の台数あてゲームとか、あみだくじ等、大変なごやかな雰囲気でした。各寺院の参拝では、子供達の歴史への関心が深められたのではないかと思われました。そして、カップルにおいても楽しいデートの場となり記念写真や会話を花が咲いていた様です。

三井寺参拝の後、難波に向けて帰路となり、車内カラオケ等で最後まで

で盛り上がり、幹事の方及び役員の方々による、家族サービスを含んだ出席者へのきめ細やかな、心づかいを感じられ、楽しい一時が過ぎ去るのを惜しむように、支部総会は全て予定を終えました。

（大瀬戸記）



■奈良支部総会

奈良県北支部第二回総会

奈良支部に変更し県全域

去る十二月九日（日）大阪産業大学奈良県北支部の総会を、発会と同日において開催しました。暖冬から急変して、寒い日であったが、新顔の方も来られ和氣あいあいで楽しい一時を過ごしました。

当日は副理事長である大西利治先生（当支部の参与もしていただいている）より大阪産業大学のたくまし

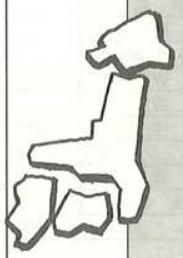
また今回の総会で奈良県北支部の範囲を広げて、奈良支部とし県全域に「輪を広げよう」と全員一致のもとで規約を改正しました。それに伴って、地域委員を十数名の方にお願いし、次回の総会は地域からの盛り上がりで五十名の参加者を集め盛大にしつゝ、役員一同頑つております。



懇親会では懐かしい話も沢山出て、笑ったり、しゃべったり、飲んだり、とにかく楽しく、初めての方もこれで打ち解けました。カラオケでは全員が歌い、その中でもプロ級が二人いました。そして、バンザイで閉会。

尚、役員は花崎支部長以下、全員留任です。

偉大なる奈良県内の平凡人たち、次回の総会には結集しよう。



■関東支部

関東支部は盛大に発足す



●来賓●

里昇 校友会長

古谷七五三 次

坂本勇 校友会副会長

眞田克 校友会副会長

晴天の青空、西の空は遠く澄み、昭和60年2月17日(日)午後12時より岡山ロイヤルホテルにおいて開催された。

里会長、大西副理事長(岡山県支

部顧問)をはじめ三重、香川、奈良、大学の各支部の代表者も加え、総数約40名のもとで総会が進められた。また、光岡支部長挨拶、次に大西支部顧問、里会長の祝辞が述べられ

た。

1、経過報告 松尾副支部長

2、会計報告 坂本会計、直本監理

3、規約改正

支部助成規程について
て報告

懇親会

次に懇親会へと会場を移し下山副支部長より開会の

ことばがあり、三重県副支部

長山本氏の乾杯の音頭で和やかに懇親会

が進められた。

最後に校友会、岡山県支部の

発展を願つて、水戸岡氏によ

る万才三唱で終りました。

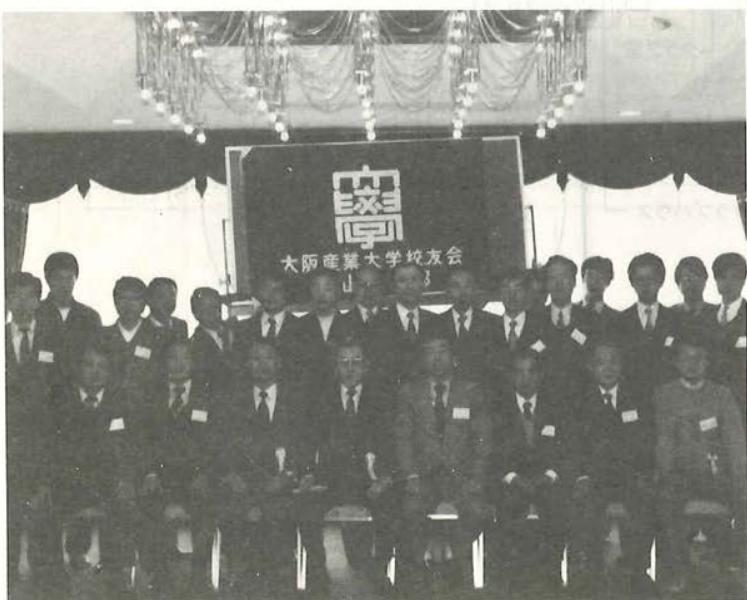
昭和59年12月8日、関東支部が赤坂のホテル陽光において発足しました。関東支部結成の必要性を前々から呼ばれていましたが、ようやく結成のはこびとなりました。結成総会において支部長に井上静也氏(44年卒)が選ばれました。地域は東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城の1郡6県をもつて組織しています。井上氏ほか有力者の話では「関東支部として発足しても、各県ごとに役員を配置して、活発に活動をしてもらう」と話されています。将来、各県で独立して支部として歩めるようになれば、分かれて支部を創つて行けばよいという発展拡大を望んでいます。懇親会では学生時代の思い出話を話す言葉に力が入った。大学の周辺は今や田圃もなく家ばかりになつたと話せば、ぜひ来年にも行ってみたいといきこんでいました。思い出ばなしはつきず閉会となる。

(次は出席された方)

井上 静也 大陽工業(株)
TEL (03) 714-13311
中西 喜久雄 川岸自動車(株)
TEL (0436) 22-11421
高橋 由光 ガデリウス(株)
TEL (03) 584-11411
井上 静也 東京健生病院
TEL (03) 944-6111
越後 昌樹 (株)和泉商会
TEL (03) 717-4961
高橋 幸男 (有)高橋モータース
TEL (0288) 77-3135
山口 宏 リンカーン・モータース(株)
TEL (03) 331-5241
荻原 俊光
TEL (06) 314-3744
中村 大介 大阪屋證券(株)
TEL (045) 314-7181
金谷 光明 群馬トヨタ自動車
TEL (03) 455-1271
栗生 敬五郎 (株)ジャパンフード
TEL (03) 455-2150
井上 真一 日本通運(株)
TEL (06) 747-7443
手塚 直行 大林道路(株)
TEL (0488) 62-1196

■岡山県支部

第4回、岡山県支部総会



4、役員改選 現役員任期満了につき改選が行なわれ満場一致で現役員が再選された。再選された光岡氏より今後の支部の抱負が述べられた。

○役員(敬称略)

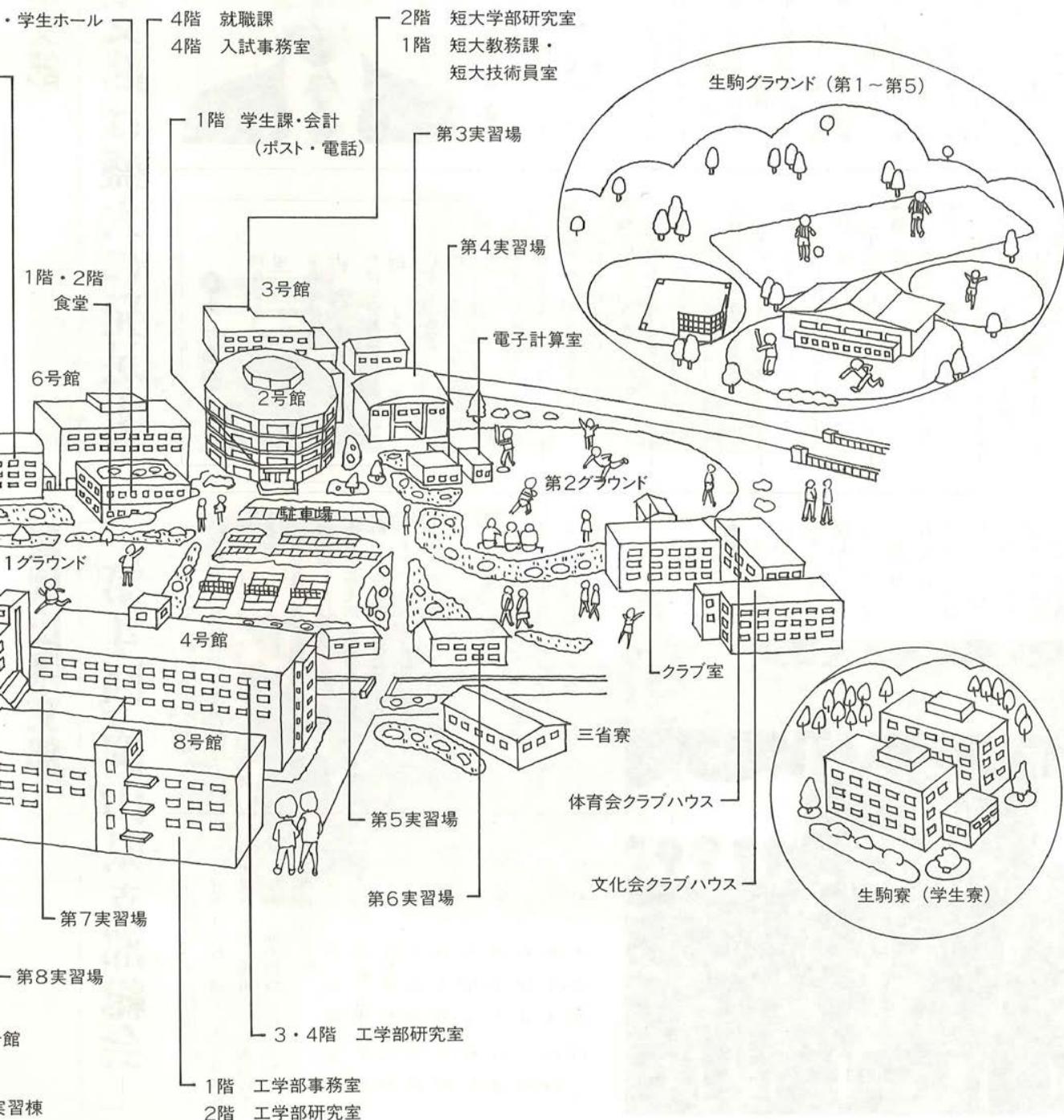
支部長 光岡明弘
副支部長 高杉日出喜智
水戸岡博志
下山晋一郎
吉沢照久
松尾俊彦

会計監事 芦田正之
坂本達彦
大西利治
道彦
松尾俊彦
吉沢照久
芦田正之
坂本達彦
大西利治
道彦
(55) (44) (41) (50) (47) (48) (28) (27) (44)

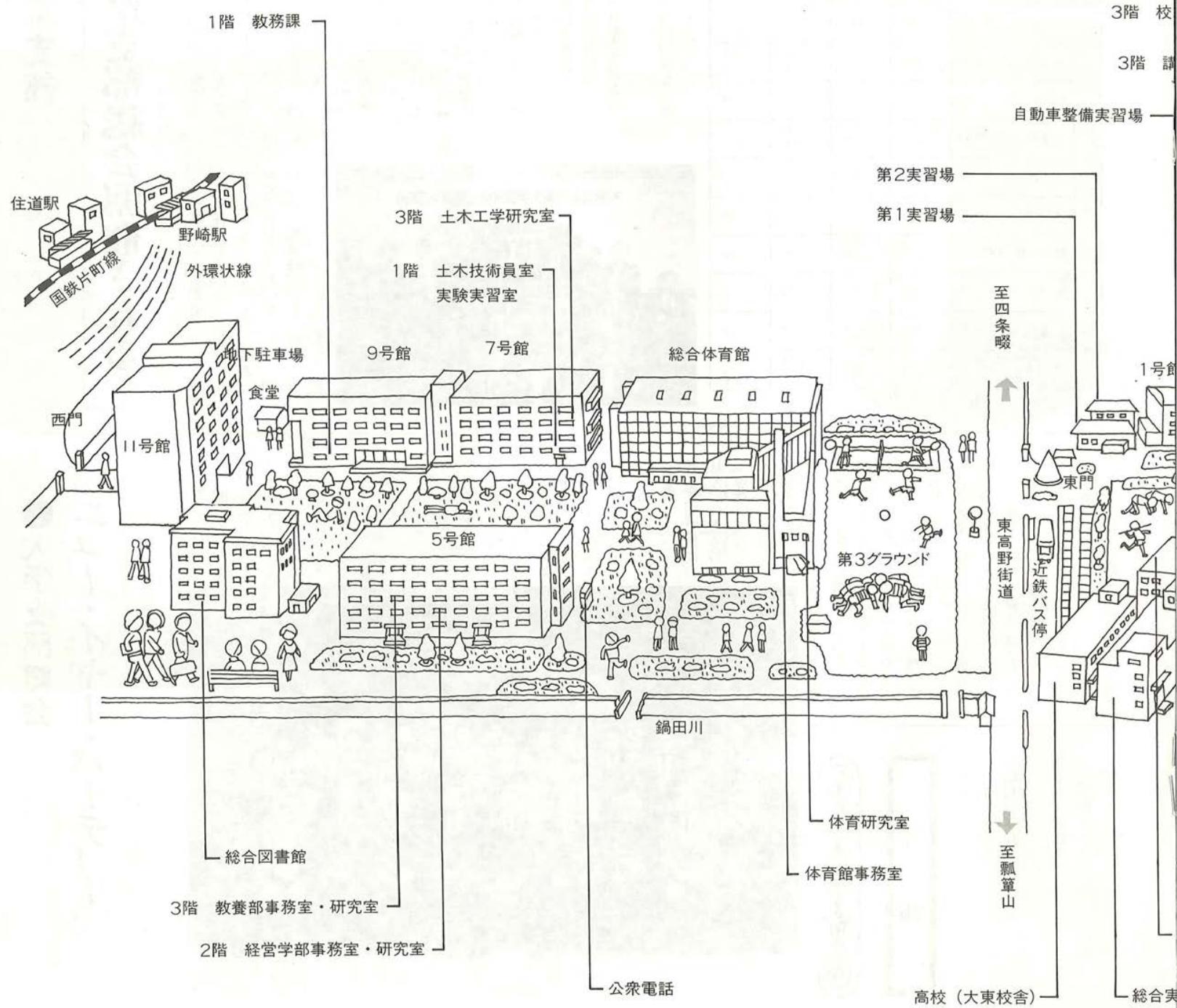
(金岡記)

キャンパス案内

東部キャンパス



西部キャンパス



三重県支部

三重県支部総会開催される

三重県支部総会（第2回）がさる
二月三日(日)の十三時より、三重県津市にある「三重県教育文化会館」において開催された。

中村礼司君が司会を務め総会次第にそつて進められた。まず、梅原一男支部長より挨拶がなされ、ついで来賓挨拶、本部から里会長より近況報告と祝辞と挨拶がなされた。次に、大学より、瀬島順一郎先生から祝辞と大學の近況などが述べられた。最後に大久保常任幹事より祝辞と校友会本部からの連絡などが話された。

出され、議事に入った。

引き続き、議長に宮崎一美君が選出され、親会で行なわれることになった。
その他には時間の関係で懇親会で行なわれることになった。

(4)その他

(1)経過報告（野上豊副支部長）
(2)会計報告（小林幸弘会計担当）
(3)会計監査報告（水野直樹会計監査）
(4)その他

学科・専攻	推薦		1次	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
I 部	経営学専攻	1,538	175	1,051 (+1)
	交通経営学専攻	965	151	598 (+1)
	機械工学科	535	78	735
	交通機械工学科	773	80	1,000 (+1)
	土木工学科	345	78	565
	電気電子工学科	769	80	1,138 (+1)
	短大自動車工業科	744	311	440
II 部	機械工学科	83	44	74
	交通機械工学科	258	104	213
計		6,010	1,101	5,814 (+4)
				939 (+3)

(+)は留学生、外数



十四時頃より懇親会に移り、里会長の乾杯で始まった。食事をしながら自己紹介、大学の近況、校友会への要望等が出され、和やかな雰囲気のうちに無事終了しました。

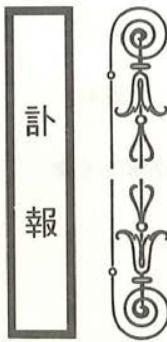
（大久保 記）

今年の冬は暖冬だと聞いていたのに、一転して寒く大雪の年となりました。でも中には雪を喜んでいるスキーイヤーもいることでしょう。恒例となっているニューイヤー・パーティー（世間では新年会という）を兼ねた総会を行ないました。1月7日は風もなく比較的暖かい日でした。こういう日を総会日和とでもいうのでしょうか（そんな日和である？）。前年と同じ野崎神社の際にある料亭「魚捨」で行ないました。会議室で総会を終えた後、座敷に席を移し、理事長はじめ多数の来賓の先生方に出席していただき、賑やかに、なごやかに親睦を深めることができました。こんな時でないとき酒をくみかわして話を機会はありません。

大学開学20周年にあたる学園は、昭和60年代という未だ経験したこともない厳しい年代を迎えるようとしている今、我々は学園を発展させる大きな力とななければならぬと決意を新たにしました。

ニューアイイヤーパーティー

大学支部総会



計報

○周防 哲夫氏

元工学部教授

昭和59年10月13日逝去

○幸山 常良氏

元短期大学部技術員

昭和59年10月17日逝去

（副支部長 松本 章）

昭和60年度

校友会総会・パーティのご案内



秋には恒例の校友会パーティへ。

今年の福引にはどんな景品が当たるか楽しみ。家族そろってホテルで友人と再会してにぎやかに。

ショーギ川左近ショー



日 時

11月24日(日)…午後1時より

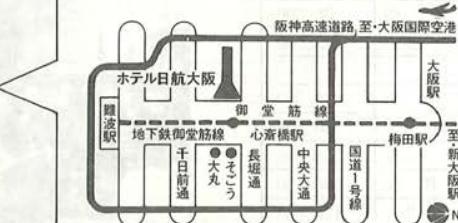
場 所

ホテル日航大阪

会 費 ¥3,500

(会員のみご家族無料)

ホテル日航大阪



〒542 大阪市南区大宝寺町西之丁7番地

☎ 06(244) 1111

Telex: 522 7575 JHSOSA

●交通のご案内

〈地下鉄御堂筋線・心斎橋駅前〉

大阪国際空港から、車で25分。新大阪駅から、地下鉄で15分。大阪梅田から、地下鉄で10分。難波から、地下鉄で2分。

今年は国際青年年のこと。内外において各種の行事が予定されているようであるが、わが国においても大学スポーツの祭典であるユニバーシアード大会が開催される。すでにボスター等もできあがり、その斬新なデザインが話題を呼んでいる。

さて、最近の若者風俗、特にファッションを見ると、ひとつの長髪につきり刈りあげられた頭、だぶだぶズボンにぶかぶか上着、女性は羅紗の半コート、黒っぽいロングスカート、靴は厚ばつたいうらバーソルといったファッショング流行とか。これを称して「ファイフティーズ」というのだそうだ。

「ファイフティーズ」とは、その名通り一九五〇年代の復古ファッショングの若者のことだが、同時に五〇歳代の方々にも懐かしく感じられるのではないかだろうか。

そこで一考、現在の若者が五〇年代の方々にも懐かしく感じられるのであるが、心が問題である。ただ外見上のリバイバルだけでなく、當時の人々がいかに考え、いかにその時代を過ごしてきたか、その生活信条は何であったか、考えてみる必要がある。そこには激動の社会を生きてきた確固たる「信念」「勇気」「自信」といった氣概があつたはずである。この「ファイフティーズ」の心も併せてリバイバルさせてほしいものである。

現代のファッショングに敏感な若者達よ。戦争の焼け跡派とは、ひとうじ違う個性を見い出し、外見のファイフティーズファッショングに、きらりと光る気概の心をもつて青春を楽しんでほしい。

チヤイム

卒業にあたり



機械工学科
関本好伸

「思い出」

私が大阪に来て一人で下宿生活を始めて、もう四年、そして卒業、ふりかえってみれば速いような気がする。

入学時には口うるさい親から離れることができ、一人で自由な生活……と思つたがそう甘くはなかつた。下宿生活で一人になり、私の弱さというものを痛感した。そんな時、力になつてくれたのが大学に入つてから出来た新しい友達であった。一、二回生の頃は毎日がレポートの山、單位を取るのが精一杯。大学に入つて何をしているのか?と聞かれても答える事はできなかつた。しかし三、四回生になり就職を目の前にした時、やつとそれが判つた。

大学とは人間を磨くための修業場であつたのではないかと思う。今まで私に足りなかつたものは、計画性とそれを行動に移す行動力だつた。しかし大学に入りそれがわかつた。それだけでも私にとって、大きな収穫である。これからは社会人としての修業がある。つらいかもしれないが、今まで、そしてこれからも力になってくれると思う友がいる。

私は幸せ者だと思う。修業場を与えてくれた両親、そして諸先生方に感謝したいと思います。



土木工学科
藤原秀

思想「偉大なる平凡人たれ」

科学の向上に伴う文化の変遷には、日頃大きな変化が見られる。その過程において、自己の満足すべき空間を見出すことは難しい。私達の学生活とは、その次元における憐愍・慈悲・寛容が織り成す安泰の時期であつたのかも知れない。

学問を通じて人間関係を養う場、私はこう大学を定義付けていたが、常に迷っていた気がする。いや、迷つている内に何かを求めようとしていたのかも知れない。大学で得た知識の意図は深い。しかし、私達を以



あの入学式から早や卒業へ

後幸福にするためだけにあるのではなく、私達が悩みと忍耐においてどれ程強くあり得るかを示す尺度であると思われる。人間についての知識とは、人間の情熱についての知識に他ならないのでは。「偉大なる平凡人たれ」今、私はその意と情熱を受け継いで社会へと歩まん。

校友会活動報告

昭和59年11月16日 学内代議員会

昭和59年11月27日 常任幹事会

昭和59年12月4日 編集部会
昭和59年12月5日 支部推進部会
昭和59年12月8日 関東支部結成総会
昭和59年12月9日 奈良県北支部総会
昭和59年12月11日 場所 ホテル陽光(赤坂)
昭和59年12月15日 場所 「桃山荘」
昭和59年12月15日 場所 駅前会館
昭和60年1月7日 場所 都ホテル
(1)昭和60年度予算について
(2)第15回代議員会について
(3)総会の反省について
(4)その他

クラブ団体名	支給額	クラブ団体名	支給額
柔道部	342,000	スキー競技部	53,000
剣道部	160,000	ライフル射撃部	57,000
硬式野球部	696,000	小計	1,040,000
サッカー部	131,000		
ラグビー部	162,000	開碁将棋部	54,000
アメリカンフットボール部	178,000	観光研究部	37,000
小計	1,669,000	落語研究部	123,000
		映画研究部	42,000
洋弓部	34,000	無線部	30,000
ゴルフ部	80,000	美術部	59,000
日本拳法部	78,000	写真部	30,000
バスケットボール同志会	30,000	鉄道研究部	60,000
バトミントン部	42,000	釣魚研究部	42,000
ヨット部	60,000	軽音楽部	88,000
ボディビル部	82,000	ユースホステルクラブ	48,000
サイクリング部	54,000	吹奏楽部	30,000
テニス部	85,000	小計	643,000
日本合気拳道部	36,000		
自動車部	30,000	(2部)雪友会	30,000
弓道部	75,000	タ歩行会	30,000
少林寺拳法部	51,000	タ写真	30,000
空手道部	30,000	タ自動車	30,000
陸上競技同好会	49,000	小計	120,000
バレーボール同好会	38,000	総計	3,472,000
卓球同好会	76,000		

- (1)昭和60年度予算について
- (2)代議員会の運営について
- (3)学生団体課外活動助成について
- (4)その他

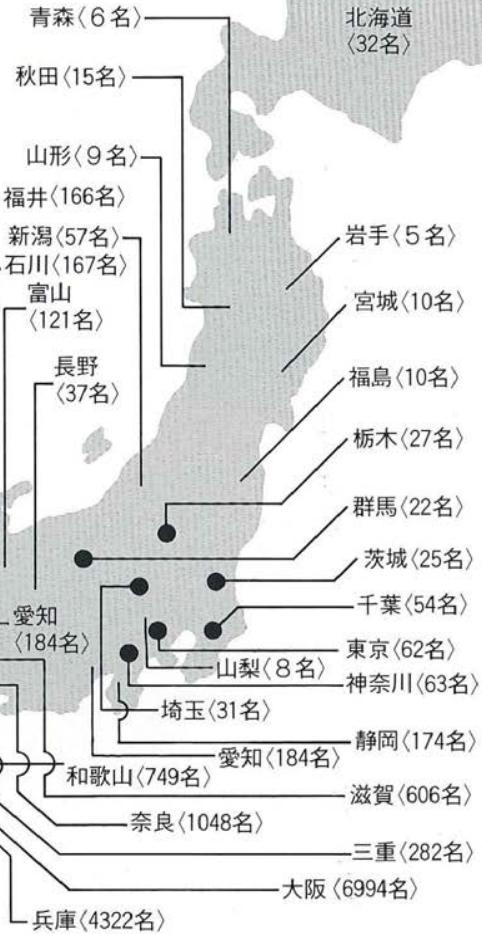
昭和60年2月3日 三重県支部総会

大阪府下市町郡別校友会員数

	人 員		人 員
大 阪	2,017	高 石	44
池 田	82	高 梶	333
和 泉	90	豊 中	188
泉 大 津	47	富 田 林	98
泉 佐 野	84	● 寝 屋 川	202
茨 木	188	羽 須 野	94
貝 塚	86	東 大 阪	429
● 柏 原	57	● 枚 方	289
● 交 野	56	藤 井 寺	63
● 門 真	133	松 原	108
河 内 長 野	86	箕 面	82
岸 和 田	137	● 守 口	161
堺	618	八 尾	204
● 四 条 暇	61	泉 南 郡	111
● 吹 田	262	泉 北 郡	130
揖 津	83	豊 能 郡	30
揖 泉 南	44	三 島 郡	22
● 大 東	162	南 河 内 郡	113
合 計		6,994	

都道府県別校友会員数

(●は支部結成地域)
住所不明者を含まず。



59年9月28日現在

大阪市内区別校友会員数	合計	
旭 区	80	
阿 倍 野 区	86	
生 野 区	127	
大 淀 区	32	
北 区	39	
此 花 区	61	
城 東 区	142	
住 之 江 区	68	
住 吉 区	111	
大 正 区	60	
鶴 見 区	94	
天 王 寺 区	45	
浪 速 区	42	
西 区	48	
西 成 区	74	
西 淀 川 区	100	
東 区	22	
東 住 吉 区	116	
東 成 区	97	
東 淀 川 区	133	
平 野 区	136	
福 島 区	47	
港 区	73	
南 区	27	
都 島 区	65	
淀 川 区	92	
合計		2,017

井 上	常 峰	田 中	田 平	伊 水	原 阿	濱 川	小 畑	近 森	小 林	中 村	太 田	柴 田	西 脇	野 村	前 田	中 村	基 さん
吉 昭 さん	敏 彦 さん	勝 典 さん	祐 久 さん	勝 美 さん	和 彦 さん	宙 美 さん	由 次 さん	康 司 さん	哲 生 さん	京 治 さん	龍 一 さん	秀 樹 さん	義 明 さん	富 士 雄 さん	保 夫 さん	見 新 さん	(12期経営)
(9期交機)	(13期土木)	(14期土木)	(11期土木)	(11期土木)	(15期短自)	(17期機械II)	(6期土木)	(9期土木)	(11期土木)	(14期土木)	(13期土木)	(13期土木)	(7期機械II)	(14期交機)	(12期土木)	(9期土木)	(12期経営)
(9期交機)	(13期土木)	(14期土木)	(11期土木)	(11期土木)	(15期短自)	(17期機械II)	(6期土木)	(9期土木)	(11期土木)	(14期土木)	(13期土木)	(13期土木)	(7期機械II)	(14期交機)	(12期土木)	(9期土木)	(12期経営)

ご結婚おめでとう

昭和60年2月17日
場所 岡山県支部総会

昭和60年2月16日
場所 岡山ロイヤルホテル

(1)昭和60年度予算について
(2)会則改正について
(3)役員改選について
(4)その他

三重県教育文化会館

校友会総会

にぎやかに、楽しく、
おもしろく、校友会のパ
ーティの開催。時は昭和
59年11月11日(日)、所は大
阪全日空ホテル、ショリー
は横山ホットプラザーズ。
後は時間の経過を写真が
説明してくれる。

第14回 代議員会

開会宣言 大平 和昭氏

副議長 中島 眞氏

議長 花崎 博美氏

副議長 中島 真氏

これまでの校友会の事業
や学園の近況について、
里会長が挨拶の中でおこ
なう。

会計報告、推薦入試の
ときの会費を預り金とし
ているについて質問があ
つたが、説明し承認され
る。会計監査も合せて行
つた。その他に積立金の
運用を効率よくしていく
たいとの話しもあつたが、
予定期間内に終了する。

楽しい懇親パーティ

いつものように大瀬戸
裕子さんの司会でスター
ト。

今年は趣向を変えて、
樽酒の鏡開きから始まっ
た。つづいて会長の挨拶
と乾杯。かわいい淑女
(大平常任幹事の長女、
展代ちゃん5才)より、
オリンピック出場の東良
氏に花束贈呈。支部旗の
贈呈は、長崎県支部(松
本副支部長)三重県支部
(梅原支部長)愛媛県支
部(渡辺副支部長)に手
渡された。ショードバイ
テイを盛り上げ、その
後は恒例の福引大会、ウ
ォークマン、ビデオが当
たつてうれしそう。

